

「リーダークライス Op 39 の唱法と解釈」

長尾 洋子

はじめに

R. Schuman が、愛妻クララに「昨日早くから私は27枚の譜を書いている。これについては、たゞ私は嬉しくて泣いたり笑ったりしているとより外は言えません。ふしと伴奏とは、今は殆んど私を殺しそうだ。私はその中に陥ち込んでしまうでしょう。然しクララよ、歌を書くということは、何という幸福でありましょう。私は長い間それをしないでいたのだ」(伊庭孝著シューマン)と、訴えている様に、歌曲を作る喜びを見出した彼は、クララとの結婚に成功した1840年の1年間に、百篇以上もの歌曲を作っている。が、それらに、彼は、それまでの旋律のみを浮かび上がらせ、伴奏は旋律を支持するものであるという作法を用いることを好まず、伴奏、旋律の区別なく、旋律は和声の中に極めて自然にとけ込み、渾然一体となって進む作法を用いることによって、始めて、彼の豊かな詩情より発する幻想を、表現しようとしているのである。それは、彼がピアニストを志したほどに、ピアノに愛着を持っていたことに原因するといえるであろうし、またそれなくしては、彼の音感を満たすことができなかつたのであろう。彼の作品は、イタリア的な感情の表現ではなく、極めて幻想的な、夢想的な、内省的な表現で占められている。「Op 24 のリーダークライス」は、まだ、伴奏部にいわゆるシューマン的な、特異的なものはあまり見られていないが、「Op 39 のリーダークライス」「女の愛と生涯」「詩人の恋」に至っては、そのピアノ部のみでさえ、歌曲の殆き美しさを持っている。「女の愛と生涯」「詩人の恋」は、一個の女性、男性の感情を歌ったものであるのに対して、この「リーダークライス Op 39」は自然の感情をロマン的に、卒直に表現しており、これを研究するに及んで、最初はただ難解で、充分に、その美しさを理解することができなかつたが、深く入るにしたがい、その内に秘められた内省的な美しさの虜となり、如何ともしがたい戦慄を境えたのである。そしてこの様な傑作を残したシューマンに、いやクララとの愛に、感謝せずにはいられない様な気さえしてくる。そこでここに、この作品を少しでもより深く理解し、演奏できるように研究した結果を、記述すると共に、テープ録音を残すことにした。

1. In der Fremde (異郷にて)

「はるか遠くはなれた異郷をさすらう私は、なつかしい故郷をいつも思う。が、そこにはすでに父母はなく、私を知ったものもない。やがて、私にも死の安らぎが訪れ、静かな森に、永遠に眠る時が来るであろう。だが、その死を傷む者は誰もいない」といった身を切る様な孤独感を、内省的に訴える郷愁の歌である。ハープ風の物静かな伴奏型に、あまり動かぬ旋律が、孤独と静寂を歌う。

4/4 拍子、Fis moll. Nicht Schnell (あまり早くなく)、4、8、22小節の装飾音は、あまり早くなくはっきりと、ただしなめらかに、aber Vater und (5小節、以下数字のみ記載し小節は省く)はずっと PP に、Keiner mehr の A 音と Gis 音は、少しアクセントをつけ幾分保って、da vuh ich auch は、cresc. にするが auch はあまり強くなく、少し暗いひびきで、14小節からは decresc. をつけ、und über (15) からずっと cresc.、schöne (17) は軽くアクセントをつけ、このあとブレスし、Waldeinsamkeit で再び高揚し、最後 19小節まで高揚した気持を落さぬ様。ここはこの曲の山であるから表現を豊かにすること、Schöne (20) の A 音はアクセントをつけ、幾分まだ感

情の余韻を残し、次の Gis 音を一つずつ保って静かにおさめる。p で Kennt mieh mehr hier に入り、rit. して dim. で終る。全体をレガートに、静かに、無理な発声をしないで（13節の E 音）歌うこと。高揚した気持ちを明かす表面に出さないで、沈潜在的な感情で歌う。

2. Intermezzo (間奏曲)

「君の絵姿は、いつも心の奥深くひそみ、私を嬉しそうに眺めている。私が歌えば、その歌はおまえの方に流れていく。おまえは、いつもやさしくうるわしい」といった愛人への心のときめきを歌っている。旋律はとぎれとぎれで休符が多いが、止絶えた個所には伴奏の旋律が浮かび出し、シンコーペーションの伴奏と合いまって、一層心の高なりを感じさせる。

$\frac{4}{4}$ 拍子。Adur. Langsam (緩やかに)。最初の Dein は、非常に発声がむづかしいが、充分のどを開いて堅い音にならぬ様、柔らかく保って表情豊かに。—Selig (3) の Se は少しアクセントをつけ、長目にし、Herzensgrund (5) の grund は、充分一拍のぼして、終り d をはっきりと発音する。fröhlich (7) も少しアクセントをつけ幾分長く。jeder (8) の je は、発音も強く、アクセントをつけアタックぎみに。Mein Herz (9) からだんだん早く、eilig zieht (16) の rit. になるまで絶えずテンポを上げていく。Lied (13) の d は、はっきりと発音し、das indie Luft Sich Schwinget は、全部一音づつははっきりとアクセントをつけて歌う。eilig (16) の ei は、音をあてて、lig は充分保って zieht に入る。ここは伴奏のシンコーペーションの cresc. と共に旋律も一層高まり、非常な気持ちのいらだちと高揚を表現している。伴奏も充分このことを考慮し、17小節の和音の変る所で Im Tempo になり、もとの気持ちに戻る。Dein (17) は、平静に返った気持ちで、保って表情豊かに歌い、Bild で Im Tempo にする。Selig (19) は少しアクセントをつけ長目に、frisch und (22) は充分 cresc., zu jeder (24) の後でプレスし (das からここまでプレスのつづかぬ場合は、fröhlich mich an のあとでプレスする)。Zu jeder の je は、充分大きくアクセントをつけ、jeder stund は rit. しねばって、表情豊かに高揚した気持ちで歌いきる。そのあと伴奏の25小節は、まだ高揚した気持ちで豊かに表現し、27小節あたりから静かに rit. し終る。歌声のすんだ直後の伴奏を美しく、右手を充分歌わすこと。伴奏のシンコーペーション型あつての歌であるから、テンポをひきずらないで、特に Meiu Herz (9) からは息せききった気持ちでひきしめて歌う。

3. Waldesgespräch (森の語らい)

前二曲とはうってかわり、非現言的なローレライの伝説に基づいた詩である。

「森へ狩猟に出かけた若者が、馬に乗った婦人を見かけ (花嫁にしたいと思いながら)「お家へ送らしましょう」と話しかける。だが女は「恋人にうらぎられた私は心もくじけてしまいました。どうぞ早くお帰り下さい。貴方は私が誰だか知らないのです」という。若者は、ふと女がローレライであることに気がつく。が、その時はすでに遅く、女は若者を嘲り笑い、冷たく殺してしまう」という若者と、魔法の対話形式になっている。したがって、若者の部分は、伴奏も角笛の様な型で表現されており、魔法の部分は、柔らかい誘惑する様な分散和音で表現されている。

$\frac{3}{4}$ 拍子。E dur. Ziemlich rasch (かなり速く) 速度は指示してある通り決して遅くならない様相に応じて早く。伴奏の前奏も力強く。Esist schon spät (5) の出だしは、力強くはっきりと、符点のリズムも明解に。es ist schon kalt (7,8) の符点も同じ。du einsam durch den wald (9) からずっと Cresc. して、du schöne (13) の E 音にぶつかる様にして、この E 音は f でアクセントを充分つけ、少し長目に保つ。du Schöne Braut! ich führ (14) は、胸をはった若者のごとく毅然と歌い切る。führ のあとの休符は短かくても大切に。ここは、求愛したあとの若者のためらい

を感じさせる様である。ここで調子は C dur に変わり、魔法の言葉となるので、それらしく声質を変化できるとよい。柔らかに伴奏にのって、Trug und (19) のトリルは、堅くならず柔らかにゆっくりと。O flieh! (29) は若者に同情した女らしい気持で、表情豊かに表現すること。du weißt nicht wer icht wer ich bin (31) は、一つづつはっきりと自分に言い聞かせる様に心をこめて。再び E dur でホルンの伴奏型に戻り、Wunderschön, So Wunderschön (37) の符点とリズムを、はっきりとアクセントをつけて、jetzt ken'ieh dich, Gott steh'mirbei (41,42) は、魔法であることが暴露した所であるから、非常に劇的に、f で1つづつはっきりと bei! までぶつかって歌う。du bist die Hexe Loreley! は、少し rit. して(ただし全体はあまり遅くなく)気味悪さと、恐怖と、怒りとを鋭く表現する。また分散音の伴奏に戻って、ここは若者が自分の正体に気がついたことを知ったのであるから、嘲笑的態度で歌うこと。Es ist schon spät (15) はf で、es ist schon kalt (57) の kalt はアタックで激しく劇的に、k の発音をはっきりと強く。Kommst nimmer aus diesem wald (60) は決して遅くならない様に、一語一語はっきりと決然と歌う。nimmermehr (61) の nim は、アタックをつけて幾分 rit. し、ねばりこく、mehr のあとブレスして、もう一度 nim- でアクセントをつけねばって、nimmer mehr nimmermehr と、二度非常に劇的に充分表現する。die sem (62) も充分ねばって、吐き出す様に wald につづく。この d の発音をはっきりと強く。59小節からは、伴奏もはっきりと強く、歌声も、若者を奮然と見下し、冷たく男を滅びさす魔法の凄愴さを劇的に充分表現すること。これは二人の対話であるから、女性男性の声質の使いわけや、劇的变化に富んだ表現力が要求されるが、練習すれば、返って第5曲の Zart heimlich よりは克服しやすいと思う。

4. Die Stille (静けさ)

「私の幸は、誰も知らない。が、ただ一人の人にのみ知ってほしい。雪よりも星よりも静かな私の心を、とんでいってあの人に伝えられたらと思う」という孤独な静けさを愛し、胸にたたまれた幸福感をいとおしむ少女の気持を表している。

$\frac{6}{8}$ 拍子。Gdur. Nicht schnell immer sehr leise (あまり速くなく、常に非常に静かに)。Keiner (2) はポルタメントをつけずあっさり。ist, so wohl (3) の ist, と so の間は発音上少し切った様になるから、so を軽く歌うこと。Einer (6) もポルタメントをつけぬ様。Keir Mensches Sonst wissen Soll (7) は、少し明かるい調子で、so still (9) からは少し静かに暗く。Sind (16) の d をはっきり発音する。Ich wünscht' (17) からは活気づいて明かるく、テンポも幾分速めに。weiter (22) のあとブレスして、bis の正音を充分出し、少し保って daß につづける。が音が横すべりにならない様に daß にアクセントをつけ注意する。Himmel wär (23) は rit して、Esweiß (24) でもとの早さと静けさに返る。So wohl (27) の So の音を長目に保って、wohl に入る。

この曲は、第一曲の In der Fremde の曲と同じ様な内省的な気持ではあるが、その様な暗さや、身を切る様な寂寞感はなく、返ってその静けさを愛し、明かるく澄んだ幸福感を表現しているのであるから、速さも指示通りあまり遅くならない様に、静かにたたみこまれた幸福感を歌うこと。

5. Mondnacht (月の夜)

リーダークライス 12 曲の中、最も浪漫的な歌で、月の夜の静かな清らかさを感覚的に表現し、おぼろ夜の感覚が、陶酔的に表現されている。したたる様な甘い伴奏に乗って、歌声は優しく、同じ旋律を何回かくり返すけれども、返ってそれが月の夜のため息の様に、伴奏の美しさを充分にひきたたせ、歌声と伴奏が一体となって始めて表現し得る美しさを表現している。

$\frac{3}{8}$ 拍子, Edur. Zart heimlich (柔らかくひそやかに), 前奏の Cis, A, Fis 音は, rit. して, 右手の旋律は繊細に, 表情豊かに充分注意して, 5小節目の左手の装飾音は少しゆっくり入れる. Es war (6) の r は, いいかげんにしないではっきり発音して, hätt' der Himmel (8, 9) の Cis から Fis までの旋律の上昇が非常に困難であるが, これがこの曲の特徴でもあり, 各節で繰り返されているため, これを克服しなくては, この歌は歌えないことになる. 最高音の Fis が下り気味にならぬ様, 呼吸をととのえて, 一つ一つ慎重に押し上げていく様に歌う. Himmel の Him はすべらぬ様にはっきりと歌いなおして(同じ型が四回でてくるから). Stillgeküßt (12) の装飾はゆっくりなめらかに丁寧に odaß sie (15) のあとの休符を大切にす様. 22小節の伴奏の右手単音のあと, 旋律が再び出てくる間奏の冒頭は, 単音の最後の音を rit. して, 表情豊かに次の Cis 音を出す. Sacht (35) の t の発音を上手に, Nacht (34) の t もはっきり発音する. Und meine (44) からだんだん Cresc., Seele (46) の装飾音をゆっくりきれいに, 次の間奏は, 歌で Cresc. された気分を充分受けついで, 高揚して次の weit につづく様. weit (49) から更に Cresc. し, 胸に暖かみがつき上げてくる様にぐいぐい歌い, aus (50) でなおい層 Cresc. し, flog durch (52) は, 胸につき上がるものを押さえつつ stillen (53) の上昇旋律を特に丁寧に静かに歌う. nach Haus (57) の短かい間で Cresc, decresc, をし, nach の ch をはっきり発音する様. この曲は12曲中最も難解な曲で, 歌いこなすことは誠に困難である.

6. Schöne Fremde (美しき異郷)

「ミルテの梢はさらさらと鳴り, 何を私に話しかけるのか. 頭上には星がやさしくきらめき, すばらしい未来の幸福を告げてくれている」と五曲につづいて同じ夜の幻想的な美しさを表現しているが, ここでは波立つ喜びと, 静寂の美しくさだけでなく, その上に明かるい幸福感が感ぜられる. 伴奏の小刻みな進行は, 幸を話しかける梢の音や, 星のまたたきを表現している様である.

$\frac{4}{4}$ 拍子, Hdur. Innig bewegt (熱烈に, 生き生きと), 前奏の右手の短い旋律は, 度々出てくるがはっきりと, 歌声の始めは p でつぶやく様に, halbversunkenen (5) は, だんだん Cresc. しながら rit. し, Mauern (6) でもとの早さに返り, alten Götter die (6) で再び rit. して Rund に入る. Rund (7) の d をはっきりと, Myrten (8) で cresc. し, bäumen (9) の bäu に少しアクセントをつけてつなげるが, この Gis 音を出すのが非常にむづかしく, Cresc. したからといって, はり上げた f でなく柔らかく響いた音になる様に, heimlich (10) の heim にアクセントをつけ, he の発音をはっきり, 前の Hier から bäumen のフレーズは少し暗く表現する. du wirr (12) の wi の発音を強くはっきりと, phantastische (14) は一つづつ情熱をこめてゆっくりし, Nacht (15) は5拍充分のばして最後に t を発音する. Es funkeln auf mich alle (17) から accele, し, 一つづアクセントをつける様にはっきりと, Liebesblick (19) も再び Cresc, し, アクセントをつけ, そのまま高揚した気持で trunken die Ferne (21, 22) を力強く一つづつ歌い, Ferne のあとプレスする. Künftigem (23) の Kün にアクセントをつけ, großen (23) の gro は, 力強く, ねばっこく, Glück (24) で弱めないで更に強く, K もはっきり発音して, es redet (20) からの気持のままで歌いきる.

7. Auf einer Burg (城の上にて)

「誰もいない崩れた城に, 年老いた騎士が石と化して眠っている. 外は静かで, 破れた窓辺に風と小鳥のさえずりが聞こえるばかり. ふと, この静かな丘の上からラインを見下すと, 婚礼の舟が楽しそうな楽員達を乗せて下ってゆく. だが, その中の花嫁だけは何か泣いている」と,

崩れはてた古城への壊古から転じて、全く対照的な明かるいラインと楽しそうな笑い声を出現させることによって、現実が夢なのか、夢が現実なのか、異様な雰囲気を出している。

$\frac{4}{4}$ 拍子. Emoll. Adagio (緩やかに). Oben (3) まで息を続け、このあとでプレスする。ただし ben の音は短くならぬ様注意して、rauscht dnrc (7,8) の scht と次の d への発音を上手に、Gitter (8) の Gi はあまり鋭くならぬ様慎重に、Krause (12) で cresc. し、hundert jahve (14) で再び cresc. するが、jahre で胸からつき上げる様にねばっこく強く表現し、oben (15) でずっと cresc. してこのあとプレスする。(充分息を吸い込んでおかないと、あとの Klausen が表現しつくされない) Klausen (17) の K から la に移る時の発音を上手に、アクセントをつけなめらかに次の gis 音に入る。unten (31) のあとプレスする。Musi Kanten (34) から cresc. して munter (35) を山に、spielen の len と munter の mun をきらないでなめらかにつづけ、n-m で中からわき出る様に強く cresc. し、und die (36) で悲しみをこめてずっと p に、weinet (38) の gis, Fis, gis 音は一つづつゆっくり深い感情をこめて、net はフェルマータを充分つけ長く、この曲は古風な音の進行をよく生かして、詩の朗読のようなつもりで静かに、厳かに歌うことが必要である。

8. In der Fremde (異郷にて)

「私は、静かな森の中で小川のせせらぎと、小鳥のさえずりを聞く。それは、あたかも楽しかった昔を話しているように聞こえる。下の谷間には古城があり、その庭にはバラが咲き乱れ、恋人が私を待っている様だ。だが、彼女はもうとっくに死んでしまった」

$\frac{2}{4}$ 拍子. Amoll. Zart heimlich (柔らかくひそやかに). 出だしの Ich が高音で、しかも短い音であるから、気をつけて充分上手に、rauschen (3) の sch の発音をきれいに、gallen (10) の G 音から E 音への上昇は、一寸困難であるからひきずらぬ様、短くあっさりと、そして gallen schlagen (10,11) に cresc, decresc, をつける。hier inder Einsamkeit (12) にも同じエクスプレッションをつける。Schönen Zeit (16,17) は rit. し、zeit に注意して入り、ze をはっきり発音する。Die Mondes-schimmer (18) は、もとのテンポに返ってあっさりと軽く歌う。Tale (22) の Ta に軽いアクセント。Als mußte in dem Garten (26) voll Rosen weiß und rot (28) は、10,11 小節と同じエクスプレッションをつける。meine Liebste auf mich warten (30,31) は一つづつ音符の長さを充分保って、langetot (32) で rit. し、次の undist (33) でテンポをひきしめ、tot (34) でずっと cresc. して「恋人はいない」の二度の同じ歌詞に変化をつけ、夢想から我に返って自分に厳しくいきかせる様に強く、そして三度目の同じ歌詞の und に持っていく、rit. し、静かにつぶやく様に終る。

9. Wehmut (憂愁)

「私は時として楽しく歌うことがある。心の中には涙が流れているが、その中、心もうきうきとはずんでくる。小鳥達も楽しそうにさえずっているけれども、その奥には深い深い悲しみのあることを誰も知らない」と、詩に秘められている深い悩みを歌っている。第一曲と曲想は似ているかもしれないが、ずっと素朴に、愛情をこめて歌わなければならない。

$\frac{3}{4}$ 拍子. Edur. Schr langsam (非常に緩く). 前奏の装飾の分散音は愛情こめて p で。Singen (3) の Sin の短かい A 音は大切に、あまり短くなりすぎない様に柔かく次の音へ続ける。(このリズムは後に四回出てくるからその都度注意すること) fröhlich (4) の fr と ö の発音がむづかしいから上手に、lich も決して短くならぬ様。dringen (7) の dr をはっきり発音する。Herz mirfrei (8) は cresc, decresc. を少しつけて frei の f と re の発音をうまく、der schnsucht (14)

のSをきつく発音し、だんだん *cresc.* して Gis 音から E 音の Lied への移行を発音とも充分注意する。erschallen (15) の schal-len は一つづつアクセントをつけて強く、ihres (16) の A 音は大切に歌って res に入り、kerkers Gvuft (16) は *rit.* する。この後の伴奏は、歌の Da が出るまでずっと *cresc.* して、歌の Da の前の音を持ち強く弾く。Da lauschen からまた最初の平静な気持ちに戻り、isterfreut (20) は *cresc.* doch Keiner (22) の K は、はっきり発音して、fühlt die schmerzen (23) は *rit.* ぎみに一つづつはっきりと歌う。im Lied das tiefe Leid (24) は、ゆっくり愛情をこめて fe の音を大切に歌う。この曲は、孤独とか寂寥とかいった感じよりはもっと深い悩みを、ただし暗くなく、ほのぼのと訴えた方が良いと思う。

10. Zwielight (たそがれ)

「たそがれは、薄気味悪く翼を広げ、すべての物をおおいかくし、それは重苦しく怖い。こんな時間には、何も信じてはならない。たそがれは、あなたをうらぎります。だが、やがて次の日にすべてが新しく生まれ変わるでしょう。しかしあなたは、よく御自分の体をお守りなさい」と、薄暗い時の不安と恐怖につつまれたたそがれ時を、不気味に表現している。

$\frac{4}{4}$ 拍子。Emoll. Langsam (緩やかに)。最初の伴奏の部分は、表情たっぷりと言を幾分保って。歌声は、恐ろしそうに静かに入る。sich (11) の h 音から C 音への上昇は、なめらかに充分スラーをつけて。Zichwie (12) から *cresc.* Träume (13) は *rit.* して。was will dieses Gra'un bedeuten (14) は、レスタティーヴ風に話しかける様に、歌うというよりは詩の朗詠のつもりで。bedeuten は *vit.* 15節の間奏を *rit.* して、Hast (16) で Im Tempo にする。wald (21) の wa は、アクセントをつけて強く発音する。blasen (21) は *rit.* St, immen hin und wieder wandern (22) も 14, 15小節の様に話しかけるとく。同じく間奏は *rit.* して、Hast で Im Temp に。Zu dieser Stunde (27) は、*cresc.* をかけ die の E 音から Gis 音への移行は、なめらかにスラーを充分かけ、少しポルタルタメントにする。freund lich wohl (28) のフーズと次の sinnt er krieg (30) のフレーズは、共に終りに *decrease.* をかけ、最初はねばりこく強め。32小節の間奏はずっと *pp* に。was heut'gehet (33) からは幾分ゆっくり目に。Nacht (38) の Na は、充分アクセントをつけ、強くつき上がる様に表現する。Verloren (38) のあとブレスして、hütedich (39) の hü にアクセントをつけ、あと sei wach munter! も、いきかす様に恐怖をこめて、話す様に歌わなければならない。このレスタティーヴ風の歌い方は、言葉の意味を理解しないと困難であるから、よくその意を研究し、陰うつな、不吉なたそがれを、鋭く表現しなくてはならない。

11. Im Walde (森にて)

「鳥は歌い、角笛はなり、嬉しげに婚礼の行列はつづく。すべては明かるく楽しい。が、やがて夜のとばりがおり、物音は消え、木々のざわめきだけが聴こえてくる。このさびしさに思わず身震いをしてしまった」明かるい一節に対して、たちまちにして孤独と恐怖の二節目が表われてくるため、一節は、明かるく軽く歌い、二節目は、ロマンチックに憂うつに歌うこと。

$\frac{6}{8}$ 拍子。A dur. Zimlich lebendig (かなり活に瀧)。シューマンの指示通り、*rit.* の箇所は、一フレーズづつ *rit.* し、伴奏で充分 Im Tempo にすること。なほ、伴奏の sf は、はっきりと。da blitzten viel Reiter, das Waldhorn klang (14) と、das war ein lustiges jagen (18) は、Im Tempo のまま、f で一音づつはっきりと、明かるく、高らかに、拍子の頭にアクセントをおいて。21小節の間奏から暗く。allesverhallt (25) は、一音づつ長目に、充分なめらかに。nur von (33) から伴奏も Im Tempo に。Bergen (34) に少し *cresc.* をつけ、wald (36) も *cresc.* し、これをうけて伴奏も *cresc.* する。im Herzensgrunde (39) の im からずっと *cresc.* し、grun は、

ねばっこく強く発音し、Cis 音から e 音への移行は、充分スラーをかけてなめらかに、表情厚く、schauert's (45) のあとプレスして、Her- のH音から Gis 音をなめらかに、grun- のA音から a 音の1オクターブの下降は、充分ポルタメントかけ、濃厚に恐怖を表現する。この曲は、ritard. と Im tempo の交錯が面白く、それ故に美しいのであるから、rit. の個所の表現を、充分研究しなければならない。

12. Frühlingsnacht (春の夜)

「春を告げるかの様にそよ風は吹き、鳥は飛び、花も咲きそめている。この春の訪れに、私は歓喜の声をあげたい。月も、星も、森も、夜鶯も、すべての物が、「彼女はおまえのものだ」と、ささやいている。」この曲は、第五曲の「Mondnacht」と並び称されリダータライズ中特に有名であるが、前者の神秘的、幻想的、陶酔的な表現に比し、ここでは、波立つ胸のときめきと、春の鼓動を、感覚的に、熱情的に表現している。

$\frac{2}{4}$ 拍子。Fis dur, Ziemlich rasch (かなり急速に)。小さきみな伴奏は、春のときめきの様に軽く演奏する。その上を歌声は、幸福の喜びを謳歌し、時には嘆き悲しむ。durch (2) の上昇旋律は、なめらかにスラーをかけて、faugt's schon an zu (8) は、rit. して、一音ずつ慎重に、丁寧に、Jauchzen (10) の jaue は、少し強くアクセントをつけ、あとの16分音符も軽いアクセントをつけて cresc. し、weinen (11) の wei に強くぶつける。Sein (13) の装飾音をきれいに、wieder scheinen (14) から cresc. し、Mondes glanz herein (16) まで crese. と同時に accele. し、胸の喜びを一っばいに表現する。glanz heren (16) は、rit. し、一音ずつ強くアクセントをつけ、最後の -ein まで f をおとさぬ様歌いきる。sterne (19) の dis 音から cis 音の上昇をなめらかに。Sagen's (20) の Sa に軽いアクセント。und die (23) からだんだん f にして、sieist dei ne sieist dein (25, 26) は、f で一つづつはっきりと、最後まで強く、大きな表現で歓喜を一っばいに謳歌する。この曲は、第五曲の様な静的な幸福感でなく、すべての物が喜び楽しむ動的な幸福感を表現する様注意しなければならない。

参 考 文 献

- 伊庭 孝著「シューマン」音楽文庫
- 野村光一著「シューマン」音楽之友社
- 堀内敬三著「世界大音楽全集シューマン歌曲集I」音楽之友社
- オスカー・ビー著 (植村敏夫訳)「ドイツ・リード」音楽之友社